

## 活性汚泥運転ワンポイント技術講座

\*\*\*\*\* 分解速度を測定するところまでわかる \*\*\*\*\*

### No.27 : 培養テスト機 (AS2)

実験室規模の小スケールの活性汚泥処理テスト機に期待される最も必要な要件は、比較テストができることです。曝気槽容量が 10L 以下のテスト機では、実機とのスケール差が大きすぎて、1 台のテスト装置の処理結果で、実機処理との単純比較はできません。したがって実機にそった基準となる処理と、条件を変えた処理と比較することにより、条件変更処理の相対評価をおこなうことが現実的です。

本テスト装置は、2 台の同一仕様の培養装置を備えているので、1 つを基準の処理に、他の 1 つを運転条件を変えた処理にして、比較テストを効率的に行うことができます。本テスト装置は、簡単な組み合わせ変更をすることで、

- ①標準的な連続式活性汚泥
- ②各種回分式活性汚泥

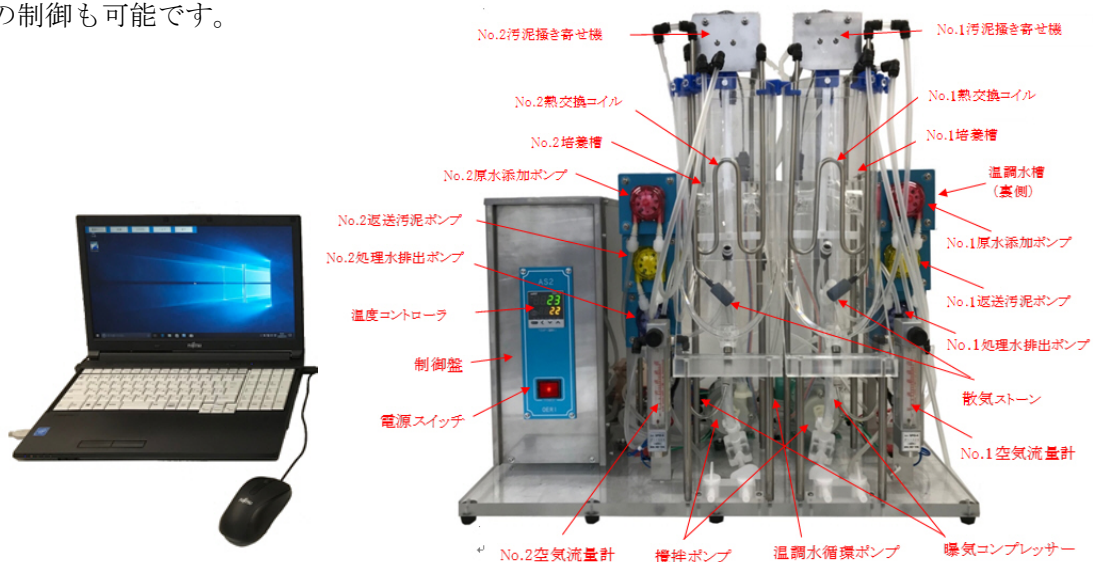
標準的な回分式活性汚泥、半回分式活性汚泥、回分生物脱窒、回分嫌気好気のテストが可能です。

また、DO 計や pH 計による測定と変化記録が可能です。

さらに、オプション仕様として、

- ①DO 計による、DO 値一定制御
- ②pH 計による、pH 自動中和（アルカリ、酸、のどちらか一方の制御）
- ③膜分離ユニットをつけることで、膜分離活性汚泥（MBR）テスト機になる。

の制御も可能です。



2 連培養テスト機で比較培養処理を行い、TSchecker で各汚泥の活性を測定することで、阻害性廃水の処理テストや、非常運転（定修時など）時の最適運転条件など、いろいろな情報を得ることができます。